

新年を迎え今日は六日、皆様は初詣にお出かけになったでしょうか？

おせち料理やお年玉、着物姿など、お正月は特別な思いを抱かせてくれる風景がたくさんあります。数え年の習慣が一般的だった時代、元日で年齢が一つ増え、その一年の生きる力をいただくという信仰がありましたので、お正月は今以上に特別であったことでしょう。

道元禅師が京都宇治の興聖寺こうしょうじにおられたとき、ある元日の朝に説法をされました。

まず元日の朝は「三つの始まりの朝」であり、それは「一年の始まり・ひと月の始まり・一日の始まり」であると述べ、続いて中国の禅問答を引用されます……。

ある修行僧が「新年のはじめに特別な仏法は有るでしょうか、無いでしょうか」と鏡清きょうせいという老僧に質問すると、その老僧は「有る」と答えました。それはどのようなものかと修行僧が尋ねると「元旦はめでたく、全てのものがあたらしい」と答えました。その答えに修行僧が感謝の言葉を述べたところ、老僧は「私は今日損をしてしまった」と言いました。

その修行僧が同じ質問を別の明教みょうきょうという老僧にすると、新年に特別な仏法は「無い」という答えで、「毎年が良い年で毎日は良い日なのに、なぜないのですか」と尋ねる修行僧に「お酒を飲んだら別の人が酔うようなものだ」と老僧は答え、その答えに修行僧は「最初のお答えは素晴らしいですが、しりすぼみです。」と返し、老僧も「私は今日損をしてしまった」と言ったのです。修行僧にとって、この二人の答えは意にそぐわなかったのかも知れません。

一方、この問答を受けて道元禅師は、二人の老僧は最後に「損をした」と言ったが、得をしたことには気づいていない。もし私が同じ質問をされたら、新年に特別な仏法は「有る」と答えるだろう。その仏法はどういうものかと尋ねられたら「みなそれぞれが幸せであるように」と答える。そして修行僧は「私もそのように修行いたします」と返してくれ、そして私は「今日大いに得をした」と言うだろう、……と結ぶのです。

一年の計は元旦にあり。お正月にあたり、道元禅師のように全ての人の幸せを祈りたいもの

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

です。そのような心で一年を生きる自分になるように努力することが、自分自身の大切な修行となるのです。私たち一人ひとりが「みなそれぞれが幸せであるように」「そのように修行いたします」と生きるとき、道元禅師はきっと言ってくださるでしょう、「大いに得をした」と。

— 終 —